

# 利根川下流域の舟運復活に向けた川づくりについて

## (利根川舟運による地域活性化プロジェクトの実施)

River improvement towards a revival of riverboat transportation in the downstream basin of the Tone River  
(Implementation of Tone River Regional Revitalization Project through Riverboat Transportation)

企画部 参事 天野 正秋  
企画部 部長 羽原 伸  
企画部 参事 関 基  
研究第三部 研究員 後藤 勝洋

利根川下流域は、徳川家康による利根川の東遷事業によって沿川に数多くの河岸<sup>かし</sup>が発達し、江戸の繁栄を支えとともに高瀬舟等の舟運により沿川地域の経済発展にも大きく寄与した。戦後、鉄道・道路等の陸上交通の発達により舟運は衰退し、河川網の交通、物流網としての機能は失われていった。しかし、利根川は「板東太郎」として日本一の流域面積を持つ河川であり、河口の銚子から取手市付近までの約85km区間で船の就航が可能であり、また霞ヶ浦、印旛沼、手賀沼等とも繋がっていることから、広大な舟運可能エリアを有している。

この利根川下流域では、平成19年度に、国土交通省利根川下流河川事務所と沿川の関連自治体が舟運勉強会を開催し、地域連携・地域振興等を図るための検討を開始した。昨年度、沿川の関連自治体では利根川舟運・地域作り協議会を立ち上げ、内閣府「平成20年地方の元気再生事業」からの認定を受けて「利根川舟運による地域活性化プロジェクト」による社会実験を含む検討を実施している。

本研究は、「利根川舟運による地域活性化プロジェクト」において、社会実験イベントの実施内容に関する報告とその結果を踏まえた課題点の抽出、対応策等の検討結果を報告するものである。

キーワード：舟運、地域振興、河川空間、農林漁業、環境学習

In the downstream basin of the Tone River, a number of riverside markets developed along the river due to the project by Ieyasu Tokugawa to move the Tone River to the east. Those markets supported prosperity in the city of Edo, and significantly contributed to economic development in riverside regions through riverboat transportation, such as by the Takase boats. After the war, riverboat transportation declined with the development of land transport, such as railways and road transport, and lost its functions as a stream network transport and distribution system. However, the Tone River is a river with the largest basin area in Japan, and with the nickname of “Bando Taro” meaning the biggest river in the Kanto region, it has an extensive navigable area. It allows boats to navigate in a section of about 85 km from Choshi at the river mouth to the vicinity of Toride City, and also connects to lakes, such as Kasumigaura, Inbanuma and Teganuma.

In FY2007, the Tonegawa-Karyu River Office of the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism and concerned local governments along the river held a study session on riverboat transportation in the downstream basin of the Tone River, and started discussions to promote regional alliances and development. Last year, these local governments established the Tone River Riverboat Transportation and Regional Development Council, which was approved by the “Genki Saisei (Revitalization) Project for Local Activities in FY2008” of the Cabinet Office, and is planning pilot programs under the “Tone River Regional Revitalization Project through Riverboat Transportation”.

This study aims to report details of pilot program events, point out issues based on event results, and present the results of a study on countermeasures, etc., under the title of “Tone River Regional Revitalization Project through Riverboat Transportation”.

*Key words : Riverboat transportation, regional development, riverfront space, agriculture, forestry and fisheries, environmental learnin*

## 1. はじめに

利根川下流域は、徳川家康による利根川の東遷事業によって沿川に数多くの河岸が発達し、江戸の繁栄を支えるとともに高瀬舟等の舟運により沿川地域の経済も発展した(写真-1参照)。また、江戸期には、東国三社詣(香取神宮、鹿島神宮、息栖神社)等で多くの観光客が訪れ、明治以降も通運丸等が就航し、近代河川舟運の幹線航路として戦前まで賑わった地域である。戦後、鉄道・道路等の陸上交通の発達により、舟運は衰退し河川網の交通や物流網としての機能は失われていった。しかし、河口の銚子から取手市付近まで約85km区間では船の就航が可能であり、広大な舟運可能エリアを有している。

利根川下流域の沿川には、歴史的な観光資源や貴重な自然景観や農林漁業の「食」等に関する地域資源が数多く存在している。さらに、首都圏にも近く、成田国際空港とも隣接していること、少子高齢化社会におけるスローライフを求める船旅客や外国人観光客の「利根川下り」等へのニーズも高まっており、利根川下流域自治体が連携して地域活性化、観光振興、農林漁業振興を図ることの重要性が認識されている。

平成19年度に、国土交通省利根川下流河川事務所と沿川の関連自治体が舟運勉強会を開催し、地域連携・地域振興等の検討作業を開始したところである。昨年度、沿川の関連自治体では利根川舟運・地域作り協議会を立ち上げ、内閣府「平成20年地方の元気再生事業」からの認定を受けて「利根川舟運による地域活性化プロジェクト」による社会実験を含む検討を実施している。

本研究は、「利根川舟運による地域活性化プロジェクト」において、社会実験イベントの実施内容の報告とその結果を踏まえた課題点の抽出、対応策の検討結果について報告するものである。

なお、利根川舟運・地域づくり協議会は利根川下流域の19市町村(取手市(会長)、香取市(副会長)、銚子市(副会長)、稲敷市、神栖市、潮来市、河内町、

利根町、行方市、美浦村、我孫子市、印西市、栄町、神崎町、成田市、東庄町、印旛村、本埜村、酒々井町)で構成されている。

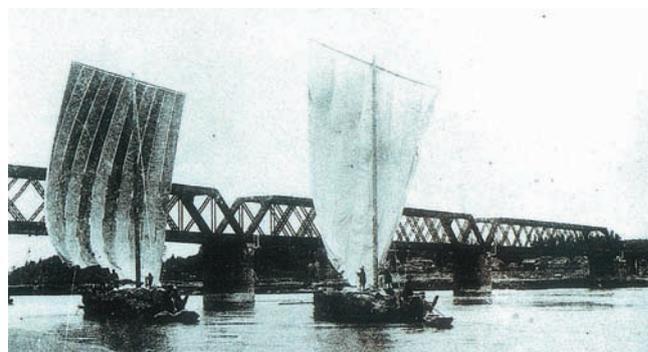


写真-1 取手市の常磐線鉄橋付近を航行する高瀬舟  
明治時代末から大正時代初期の頃(取手市教育委員)

## 2. 事業実施内容

「利根川舟運による地域活性化プロジェクト」平成20年度は以下のイベントを実施した。

- ①舟運連携リレーイベント
- ②河川空間を活用したイベント
- ③農林漁業産品等の宣伝

### 2-1 舟運連携リレーイベント

取手～銚子間の舟運の可能性を実証するため、既存の船着場を活用して舟運連携リレーイベントを実施した(表-1、図-1、写真-2～7)。また、沿川観光資源の紹介としてクルージングマップの作成、さらにイベント開催の広報のための協議会独自のHPや舟運イベント配付資料の作成を行うとともに、イベント開催時にはアンケート調査を実施し、調査結果を整理して評価・分析を行った。

使用した船は、民営舟運事業者(ラクスリーナ)所有の大型客船「ホワイトアイリス号」(定員88人)、さらに利根川下流河川事務所より巡視船「はるかぜ」、「かとり」、霞ヶ浦河川事務所より巡視船「白帆」を使用した。

表-1 舟運連携リレーイベント内容

開催日	ルート	乗船人数(人)	船	関係自治体	
10月11日	AM	利根川 (取手～香取間)	91名	大型客船1隻、 巡視船3隻	取手市、我孫子市、利根町
	PM	利根川 (出津～香取間)	54名	大型客船1隻、 巡視船1隻	印西市、酒々井町、印旛村、河内町、 栄町
10月12日	AM・PM	香取～霞ヶ浦 ～潮来間	90名	大型客船1隻、 巡視船3隻	香取市、潮来市、行方市、稲敷市、 美浦村
11月22日	下り (AM)	香取～銚子間	19名	巡視船1隻	成田市、香取市、神崎町、東庄町
	上り (PM)	香取～銚子間	19名	巡視船1隻	香取市、銚子市、神栖市
合計			273名		

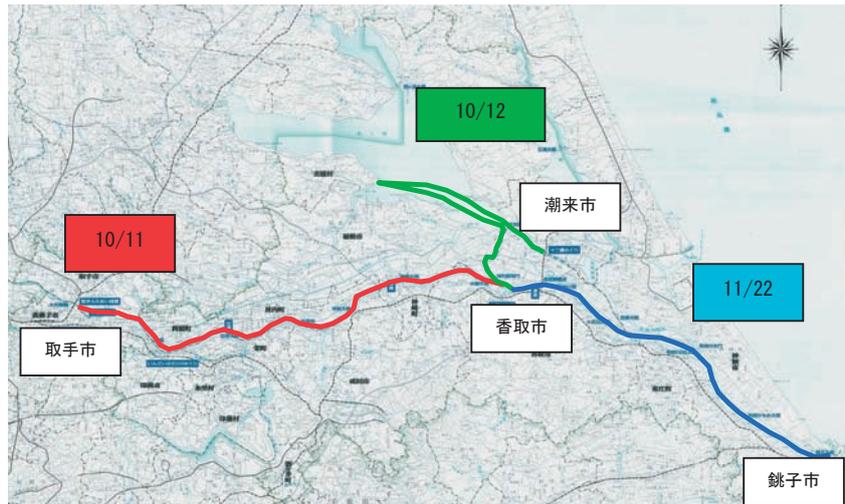


図-1 舟運リレーイベントルート



写真-2 大型客船 (10/11)



写真-5 霞ヶ浦 (10/12)



写真-3 大型客船内 (10/11)



写真-6 利根川河口堰 (11/22)



写真-4 重要文化財横利根閘門 (10/12)



写真-7 銚子船着場 (11/22)

当日、事務局で作成したパンフレット「利根川見どころマップ」を参加者に配布した(図-2)。このパンフレットには、以下の情報を記載した。

- ①モニタリングツアーの趣旨、②「利根川舟運・地域づくり協議会」の説明、③かつての利根川舟運、利根川の見どころマップとその解説、④各市町村のイベント情報、⑤各市町村の名所・旧跡情報、⑥各市町村の名物・名品情報、⑦河岸の説明とクイズ、⑧生き物(魚、鳥)の紹介、⑨植物の紹介、⑩既存舟運の紹介、⑪利根川の伝説、⑫利根川周辺の市町村境界



図-2 パンフレット(利根川見どころマップ)

舟運連携リレーイベントとして10・11月に実施した結果、3日間で合計273名が乗船し、アンケート調査では204名からの回答を収集した。長距離の乗船体験の感想は「たいへんよかった」62%、「まあまあよかった」36%、また、支払い可能な乗船料金としては「1,000円以上1,500円未満」が39%、次いで「1,000円未満」が24%、年代では「60歳代」が39%、次いで「50歳代」が23%であった。乗船した人の声は「長い間舟運が日本の繁栄を支えていた歴史を忘れてはならないと思います、今後の観光の目玉として期待します、是非もう一度乗りたい」等と評価は良好であった。

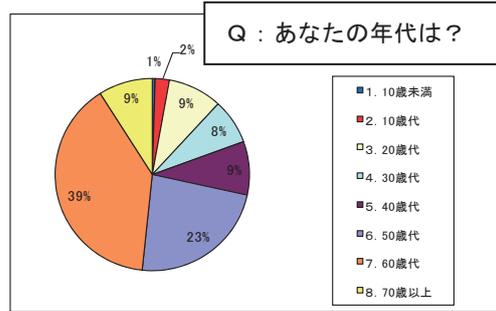
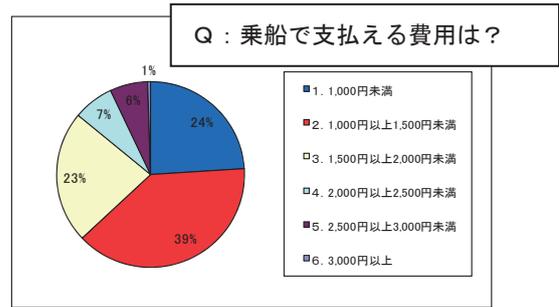
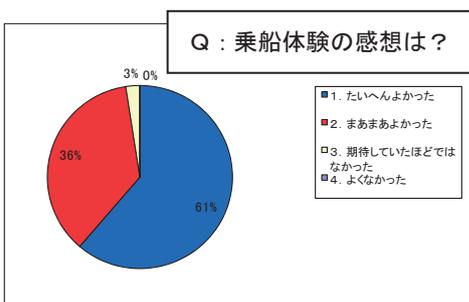


図-3 舟運に係るアンケート結果

## 2-2 河川空間を活用したイベント

利根川の河川空間を活用したイベントを展開するため、既存のイベント(サイクリング、ハイキング等)・祭りの開催に合わせて12のイベントを実施した(表-2、図-4、写真-8~11)。



図-4 河川空間イベント実施箇所



写真-8 酉の市・印旛沼(12/13)

表-2 河川空間を活用したイベント内容

開催日	名称等	関連自治体	参考
10月5日	とりで利根川河川祭り	取手市	
10月13日	こうざきコスモス祭り	神崎町	
10月19日	印西よかっぺ夢祭り	印西市	
	市民サイクリング大会・富田渡船	香取市	
11月16日	駅からハイキング	印西市	
12月13日	印旛沼と冬鳥、船によるモニタリングツアー（安食の西の市）	6市町村（栄町、印西市、成田市、酒々井町、印旛村、取手市）	写真-8
1月4日	新春大利根ウォーキング	香取市、銚子市、東庄町	
1月12日	手賀沼と冬鳥、船とウォーキングによるモニタリングツアー	4市町（我孫子市、取手市、利根町、河内町）	写真-9
1月17日	「取手新春伝統行事&ビール工場見学」モニタリングツアー	取手市、香取市、東庄町	写真-10
2月21日	ぶらり川めぐりの旅と我孫子ふるさと散策視察会	印西市	
3月7日	ぶらり川めぐりの旅と印西ふるさと散策視察会	印西市、取手市	写真-11
3月15日	酒蔵まつり2009in神崎	4市町（神崎町、成田市、香取市、栄町）	



写真-9 手賀沼ウォーキング (1/12)



写真-10 取手新春伝統行事どんど焼き (1/17)



写真-11 印西市ぶらり川めぐりの旅 (3/7)

アンケート調査では、393名からの回答を得た。イベント参加の感想は「たいへん満足した」54%、「まあまあ満足した」42%、また、年代は「60歳代」が44%、次いで「50歳代」が20%であった。乗船した人の声は「この催しを年に2、3回やってくれると良いと思います」等と評価は予想よりかなり高かった。

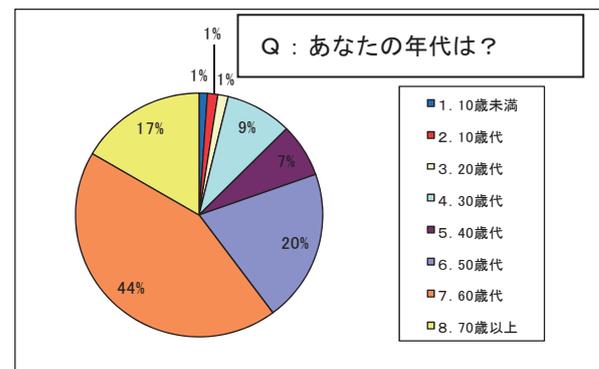
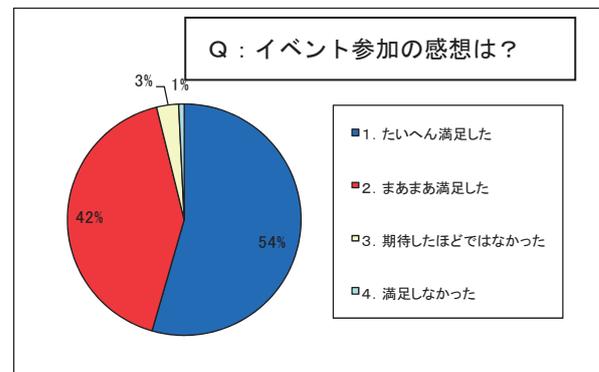


図-5 イベントでのアンケート結果

### 2-3 農林漁業産品等の宣伝

地域の農林漁業産品等の宣伝として、舟運リレーイベントや河川空間を活用したイベント時に合わせて、試食会、インタビュー調査、アンケート調査を実施した(写真-12~13)。

- ・参加者の一部を対象にインタビュー調査を実施し、まだ市場に出ていない隠れた産品(無添加カステラ)があることを確認した。
- ・アンケートでは339名からの回答を収集し、「魚介類、米、野菜、果物、酒、漬け物、お菓子のうち、特産品として良いと思う品物」の中では、野菜、魚介類、漬け物が上位を占めた。次年度における産品の宣伝や販売の促進のためのヒントが得られた。



写真-12 船内の試食会(香取~銚子間:11/22)

### 3. クルージングマップとHP開設

#### 3-1 クルージングマップ

各イベント時に作成したパンフレットとは別に、利根川下流全体の観光地、産品、舟運等を紹介するクルージングマップの作成を行った。内容については、子供・高齢者にもわかりやすいようにイラストによる表示とともに、観光地の説明や既存舟運事業の紹介等を作成した(図-6参照)。



写真-13 テント内の試食会(手賀沼ウォーキング:1/12)



図-6 クルージングマップ(イラスト、観光地紹介)

### 3-2 HP開設

りレイイベントや河川空間を利用したイベントの紹介や募集、舟運のブログ（感想や写真、動画等による紹介）などの情報を広範囲に発信するために、利根川舟運・地域づくり協議会のホームページの作成を行った（図-7～8）。今後は、各自治体担当者が直接「関連イベント情報」や「利根川舟運ブログ」を入力できるようマニュアルを作成した。



図-7 HP（トップページ）



図-8 HP（関連イベント情報）

## 4. 課題点抽出と対策検討

### 4-1 全体の課題点抽出と対策検討

地域振興の一環として定着されていくための課題としては、舟運において独自の体制で展開が継続できるように将来的な方策を検討する必要がある、募集時期や募集範囲、料金や経費等について検討した上で実施する必要がある。また、河川空間の活用に関しては、新たなイベントの実施に向けた検討、魅力創出のための工夫、内容の充実を図るため、引き続き参加者のニーズや評価を収集し、評価・分析を行うとともに、舟運

事業者の参画の仕組み等について検討する必要がある。農林漁業産品については、オリジナルの名産品開発等に反映させることが重要であると考えられる。

表-3 課題点

取り組み	今後の課題
舟運連携レイイベントの実施	今後は独自の体制で展開できるように将来的な方策の検討
	秋季以降の河川水位が比較的低い時期においても大型船が安全に安定した運行を確保するための航路・水深の確保を図るための検討
	募集時期の検討（行楽シーズンでの開催）
河川空間を活用したイベントの実施	募集範囲の検討（HPの活用や県・観光協会等との協力により広範囲の募集）
	新たなイベントの実施に向け、アンケート結果等を踏まえた検討
農林漁業産品等の宣伝	内容の充実を図るため引き続き参加者の評価を収集
	収集した産品情報とアンケート結果等をもとに、商工会や地元料理人を招集し、地元オリジナル名産品の開発に反映

### 4-2 次年度実施方法

今後の課題より、舟運連携レイイベント及び河川空間を活用したイベントにおいて、次年度の実施計画を以下に示す。

#### (1) 舟運連携レイイベント

取手～銚子間の舟運レイイベントで、不定期船の運行の可能性について検討する必要がある、具体的な内容を以下に示す。

- ①行楽シーズンである「あやめ祭り（5～6月）の時期、佐原の夏の祭（7月）」・夏休みにおける舟運レイイベントを実施する。
- ②今後継続的に運営展開ができるよう経営上の観点からも民営舟運事業者等との協議を行い、実施体制や方策について評価・分析を行う。
- ③船着場については国土交通省・関係市町村で調整し整備を進めていく。

#### (2) 河川空間を活用したイベント

- ①H20年度に実施したイベントに加えて、新たな健康イベント（ウォーキング、サイクリング等）や自然体験型イベント（キャンプ、釣り等）として、アンケート結果等を踏まえ、場所・時期・コース等を検討し実施する。
- ②実施イベントの定着化、定期化、既存イベント・祭事等との連携強化に向けて、アンケート結果等を参考に改善内容を検討し、的確にイベント等へ反映させる。

### 4-3 個別意見等を踏まえた配慮事項

#### (1) 舟運連携リレーイベント

アンケートにおいて、個別意見を収集しており、次年度のイベントに反映させていくことが考えられる。具体的な配慮事項(案)を表-4に示す。

表-4 個別意見を反映した配慮事項(案)

	内容
10月11日 利根川 (取手～ 香取間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「河川敷の牛の放牧」のさらなる活用。</li> <li>・植物群落、鳥類、魚類の生息区域コース設定。</li> <li>・途中船着場(出津)でトイレ休憩、産品販売(土産、農作物等)。</li> <li>・香取・取手にレンタサイクル提供。</li> <li>・佐原の大祭(7月)等イベントに合わせて実施。</li> <li>・小、中学校の体験学習に活用。</li> </ul>
10月12日 香取～ 霞ヶ浦～ 潮来間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆったりした時間が流れる」をアピール。</li> <li>・外での説明において声が聞こえづらいため、メガホン等の使用。</li> <li>・時間がかかりすぎて飽きてしまわないように、途中数回下船し、トイレ、産品販売、観光地案内等。</li> </ul>
11月22日 利根川 (香取～ 銚子間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中下船する船着場がないため、出発地点となる香取もしくは銚子にて産品販売。</li> <li>・途中植物群落、鳥類、魚類の生息区域としてコジュリン公園等で低速運行による観察。</li> <li>・船と銚子電鉄との組合せ。</li> </ul>

利根川舟運において、具体的にみてよかったものとしては、広大な水面、河川敷の牛の放牧、横利根閘門、利根川河口堰等があげられ、これらを含めた対応方策を以下に示す。

#### ①案内

河川敷の牛の放牧風景は利根川ならではのものであり、他の河川ではあまり見ることができないことから、可能な範囲で牛が放牧されている岸辺に近づき、速度を落として眺めることが必要である。

横利根閘門は歴史的価値(重要文化財)があり、利根川河口堰も含めて閘門通過は普段日常生活では得られない体験であるため、コースとしては重要なポイントである。

#### ②費用

費用については、1,000円～1,500円未満が最も多く、香取市の小野川舟運費用(1,200円～1,300円、30～60分)、印西市のぶらり川めぐり(1,000円、60分)、潮来市・香取市の十二橋めぐり(1,300円程度、40分)と同程度であった。

料金設定としては、パンフレットや産品等を含めて、1,000円～1,500円の範囲で設定することが考えられる。

#### ③所要時間

所要時間については、11日では2時間、12日では6時間と長く、既存の舟運では1時間程度であることから、今回のリレーイベントの乗船時間は比較的長く、「ゆったりした時間が流れる」と感じる場合と、「時間がかかりすぎて飽きてしまう」という意見に分かれた。途中数回下船するか、低速運行して植物・鳥類・魚類の生息区域等の見せ場を確保することなどが必要であると考える。

#### (2) 河川空間を活用したイベント

個別意見を反映した配慮事項(案)を表-5に示す。利根川を活用したイベントについての要望として、「ウォーキング大会」、「自然観察会(鳥、昆虫、植物等)」が比較的高い支持を得ており、次いで「歴史勉強会」「花火大会」、「バーベキュー、芋煮会等」の順となっている。今年度実施したイベントにおいても「舟運」と合わせて「ウォーキング」や「野鳥観察」「観光地の歴史的な施設めぐり」「祭り」等が実施されており、健康型のイベントや学習型のイベント等についても開催が望ましいと考えられる。

表-5 個別意見を反映した配慮事項(案)

	内容
10月5日 利根川河川まつり (取手市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産品等と提携して、1,000円以上買い物した人を対象とした体験乗船。</li> <li>・取手にレンタサイクルを提供し、「小堀の渡し」で下流まで移動して周遊するコースの実施。</li> </ul>
10月13日 コスモス祭り (神崎町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産品の種類の増加。</li> <li>・産品、農産物の販売。</li> </ul>
12月13日 西の市、印旛沼 舟運(栄町等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印旛沼舟運とハイキングコース、ウォーキングコース、サイクリングコース等の組合せ。</li> </ul>
1月12日 ウォーキング、 手賀沼舟運、 (我孫子市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舟運、ウォーキング、バードウォッチング、レンタサイクル等の組合せの選択。</li> <li>・ヨット、カヌー体験の有料実施。</li> </ul>
1月17日 どんど祭り、利 根川舟運、 (取手市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利根川の単調な景観に変化を持たせるため、植物、魚類、鳥類の生息区域を低速で運行し、野鳥の会や鳥類保護連名等に協力を依頼し、パネルやDVD等にて勉強会の実施。</li> </ul>
2月21日 舟運、我孫子市 内観光、(印西市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季の舟運において風、水しぶき対策。</li> <li>・舟運とウォーキングコース、バードウォッチング等の組合せ。</li> </ul>
3月7日 舟運、印西市内 観光、(印西市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印西市にてレンタサイクルを提供し、手賀沼付近で下船して、下流または駅まで周遊するコースの実施。</li> </ul>

・各イベントで、船着場付近にて産品、農産物の販売。

## 5. おわりに

今年度舟運においては取手～銚子間の舟運可能性について実証・確認し、河川空間の活用については、自治体域を超えた連携イベントの開催、また、農林漁業産品に関しては、自治体域を超え連携した宣伝を実現した。リレーイベント等を継続して実施していくための体制づくりが重要となるため、今後の課題への対策を実施することでイベント内容の一層の充実、観光地のさらなる活性化が期待できると考える。

なお、本研究において国土交通省利根川下流河川事務所、取手市、香取市をはじめ、関係の方々のご指導とご協力をいただいた。ここに記して、心より厚く御礼申し上げます。

### <参考文献>

- 1) 利根川舟運・地域づくり協議会，国土交通省関東地方整備局：平成20年度地方の元気再生事業 利根川舟運による地域活性化プロジェクト報告書（2009）
- 2) 利根川下流河川事務所：H19利根川下流管内水面利用計画検討業務報告書（2008）
- 3) 財団法人リバーフロント整備センター：内陸水運への招待（2003）